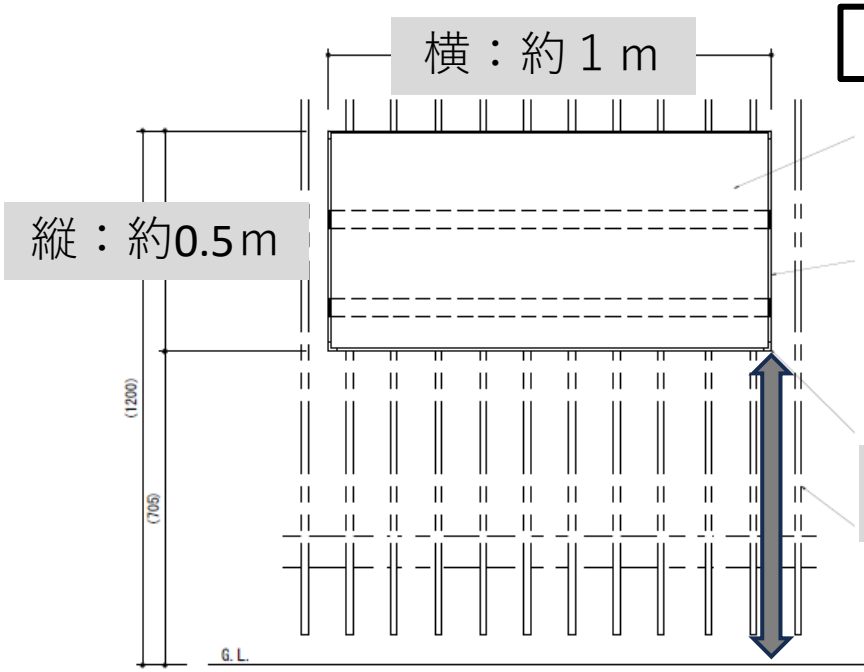
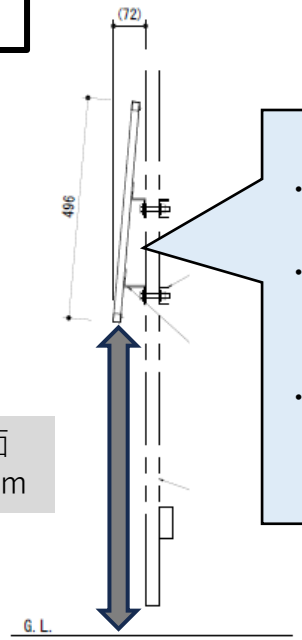
設置図面



地面から看板底面
までの高さ：約0.7ｍ



・児童の目線の高さに設置。

・傾斜をつけているため、
大人も立ったまま読みやすい。

・設置面の足元は植栽帯のため、
衝突等の危険性がない。

看板レイアウト

加納久宜の「遺徳碑」

この石碑は、加納久宜（一八四八～一九一九）の死後にその恩徳を後世に伝えるため、大正十年（一九二一）六月、入新井町と信用組合によって、この小学校に建てられました。

加納久宜は、幕末の上総（千葉県）一宮藩主の時、率先して私領返上、廃藩置県を提唱し、明治時代には産業・経済の振興につとめた指導者として、全国的に活躍した人物です。鹿児島県知事や、帝国農会初代会長なども務め、農事改良などに貢献しました。子爵であったため、加納公と呼ばれます。

現在の山王公園前（山王三丁目三一番）に屋敷があり、明治三十三年（一九〇〇）から入新井村の学務委員を務め、信用組合を設立するなど、地元の教育普及や産業振興に尽力しました。かつては貧しい村だった入新井村を、模範的な村に変えた恩人として、村人からは父母のように慕われたといいます。

大正八年（一九一九）、七十二歳で没し、墓所は谷中墓地にあります。

碑文から

大田区教育委員会

設置イメージ

